

# ニジェール支所便り

## 6月号

【編集長】松本支所長 【編集担当】保久企画調査員

Tel: (227) 2073 5569 Fax: (227) 2073 2985 E-mail: ni\_oso\_rep@jica.go.jp

### プロジェクト・専門家等の活動の進捗状況紹介

#### ■■■サヘル地域における貯水池の有効活用と自律的コミュニティ開発プロジェクト(VRACS)■■■

<http://www.jica.go.jp/project/niger/001/index.html>

#### 【雨季の FFS の開始】

ニアメ州、タウア州、マラディ州のそれぞれのサイトでは、乾季の FFS が終了し、雨季の到来とともに雨季の FFS が始まりました。タウア州及びマラディ州の FFS グループは、雨季にはミレットやソルガムなどの穀物栽培を学習テーマに設定し、ニアメ州の FFS グループは雨季においても学習テーマを野菜栽培に決めました。以下、ニアメ州の 2 つのモデルサイトの雨季作の学習テーマについて紹介します。

#### ・Yantala Corniche

ニジェール川沿いに点在する野菜栽培組合にはそれぞれが得意とする野菜の品種があり、VRACS のサイトである Yantala Corniche ではサラダ菜の栽培を得意とし、年間を通して主にサラダ菜の栽培に取り組んでいます。一方、サラダ菜以外の野菜は僅かにキャベツ、セロリ、ピーマンなどが栽培されている程度です。乾季にはサラダ菜を学習テーマとして FFS を実践してきた Yantala Corniche の FFS グループですが、実が大きくなれないなどの課題を抱えていたピーマン栽培を雨季の学習テーマにすることに決めました。エクスペリメントは、異なる 4 つの栽培方法によってピーマン 1 品種の栽培比較を行う設定であり、どの栽培方法が Yantala Corniche で問題となっている塩害を抑え、実の大きなピーマンを栽培できるかを探ることになります。5 月 18 日に、グループは FFS プロポーザルを普及局職員の支援のもと作成し、苗畑作りと播種を行いました。

#### ・Tchingal Bangou

ニアメ空港の南に位置する Tchingal Bangou の FFS グループは乾季にはトマト栽培を学習テーマとして FFS に取り組みましたが、雨季には栽培経験の浅いピーマン栽培に取り組むことを決めました。学習テーマは Yantala Corniche と同じくピーマン栽培となりましたが、エクスペリメントの方法は異なり、Tchingal Bangou では、異なる 4 品種の比較栽培を行い、各品種の特性を学んでいくことになります。5 月 14 日に、グループは FFS プロポーザルを普及員と共に作成し、苗畑作りと播種を行いました。(小村専門家)

## ■■みんなの学校：住民参加を通じた教育開発プロジェクト(EPT III)■■■■

### 【タウア州教育フォーラムに向けて】

いよいよ6月11日に迫ったタウア州教育フォーラムに向け、そのための準備会合が開催地であるタウア州マダウアで開催されました。22日にはタウア州知事を始めとする主要関係者が集まり、フォーラムに向けた協議を行ったり、当日及び当日までの流れについて話し合ったりしました。翌23日には視学官会議が開催され、フォーラムの事前準備やフォーラム後のフォロー、ディスカッションのファシリテート等を担う視学官に、フォーラムや自分の役割についての理解を深めてもらいました。

6月3、4日にはフォーラムで講師を務めるCGDES 監督官たちを対象に、「コミュン評議会(フォーラムをより持続性のある活動につなげるために構成された、コミュンと学校運営委員会及び連合連携の新しい枠組み)」についてニアメにて研修を実施する予定です。市長や学校運営委員会連合代表、県CGDES 監督官等から成るコミュン評議会(通称CACOCOM: Cadre de Concertation Communal)が機能しフォーラムの目的である、学校運営委員会(コミュニティ)と行政の協働による持続的な教育開発の活動につなげられるよう、プロジェクトとしても支援していきます。

なお、今回のフォーラムのテーマは「女子教育(就学促進、男女格差是正)」。フォーラムでは州内の学校運営委員会連合や市長等に、テーマに沿った取組みについて協議してもらい、その取組みを実行、継続していくことが期待されます。(羽田野専門家)

(注:フォーラムとは、学校運営委員会/学校運営委員会連合による、地域の教育改善に取り組む活動で、今フェーズから学校運営委員会(コミュニティ)と地方行政とが協働してより持続性のある活動を目指すものである。フォーラムでは毎回テーマを掲げ、各学校運営委員会/連合はそのテーマに沿った活動を進め、行政側はそれを支援する。)



タウア州教育フォーラム準備会合の様子



視察に行った学校で補習授業を受ける子どもたち

## ベナン・ニジェール鉄道について

ベナン・ニジェール鉄道の竣工式が4月7日にニアメ駅予定地(飛行場の近くにある競馬場隣)で開催され、ニジェール大統領、トーゴ大統領、ベナン大統領も式典に参加するといった大規模なものでした。

5月8日にニジェール大統領がレール設置工事現場を視察し、翌日の新聞に進捗状況の詳細が記載されていました。ニアメ市内は現在1日につき200mのレール設置、ニアメ市外からは1日につき1000mのレー

ル設置との計画で、ニアメ市とドツ市の間(135 km)のレール設置が終了した後、12月18日にニジェル大統領が一番初めに鉄道を利用し、ドツまで行く予定だそうです。(保久企画調査員)



ニアメ駅予定地



展示してあった列車

ニジェル大統領がレール設置工事現場を視察した記事(Sahel紙2014年5月9日)

参考までにベナン・ニジェル鉄道について調べてみましたので、ご覧ください。

(引用元:

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%99%E3%83%8A%E3%83%B3%E3%83%BB%E3%83%8B%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%83%BC%E3%83%AB%E9%89%84%E9%81%93%E8%BC%B8%E9%80%81%E5%85%B1%E5%90%8C%E4%BD%93>)

ベナン・ニジェル鉄道輸送共同体(Organisation Commune Benin-Niger des Chemins de Fer et des Transports、OCBN)は、ベナンの鉄道。北線、西線、東線の3線があるが、東西両線は運休中。北線はベナン最大の都市であるコトヌー港と北部の中心都市であるパラク



ーを結ぶ全長 438km の路線である。軌間は 1000mm、非電化単線である。ベナン・ニジェール鉄道輸送共同体はベナンが 63%、ニジェールが 37%を出資しており、ベナンのみならず海を持たないニジェールの主要輸送ルートとなっている。起点のコトヌーにはニジェールの自由貿易区域があり、終点のパラクーには貨物のターミナルがあり、ニジェール向けの貨物はここでトラックに積み替えられ、ベナンの北の国境であるマランヴィルへと運ばれ、ニジェール川を越えてニジェールの南の国境であるガヤからニジェール国内へと運ばれる。同線は、1912 年に起点のコトヌー からサベールまでの路線が開通し、のちにパラクーまで延長した。1959 年にはベナン(当時はダオメー)とニジェールの自治政府によってダオメー・ニジェール鉄道輸送共同体が設立された。この会社は内陸国ニジェールの首都ニアメまで路線を延ばすことを目標とし、1976 年に建設に合意。1978 年にいったん着工したものの、資金難により工事は中断された。2006 年に旅客サービスを廃止し、現在貨物専業である。

## 新レストランの紹介

新しいレストランが 5 月 17 日に開店しました。La Cabane (Café & Resto)です。場所は事務所の近くで、ヤンタラ通りの Rue Maurice Delens と言えば、タクシーマンでもわかるということです。営業時間は 10h00～夜中までで、年中無休です。電話番号は 2035-1111。西洋料理で、お酒も飲めます。Wifi もあります。行ってみた感想ですが、土曜日・日曜日にゆっくりと時間を過ごすのにいいなあと思いました。お勧めです。(右写真は、2 階のテラスから中庭を映しました)(保久企画調査員)

